

人はちがってあたりまえ ~その先にある 温かいまなざし~

大人の言動は子どもの鏡

みんな違って、みんないい。頭ではわかっているけど、日常のふとした瞬間で「普通は」こうだよ、ね」という自分の中の「正解」や「普通」の枠に当てはめようとすることはありませんか？子どもたちは、大人の無意識な言動や、家庭での会話を驚くほど敏感に「学習」しています。

学校には多様な「いのち」があります

特性・健康

発達の特性、先天性・慢性の疾患など、からだやこころの現れ方は一人一人異なります。

外見・ルーツ

皮膚などの疾患、体格の違い、外国にルーツを持つ子など、見た目のも多様性もその子の「大切な一部」です。

自分らしさ

性別の違和感や、特別支援学級での学びなど、一人一人が自分らしくいられる環境が必要です。



ヨシタケシンスケさんが語る

「ちがい」

“おなじところをさがしながら
ちがうところをおたがいに
おもしろがれば いいんだね。”

絵本「みえるとか みえないとか」より

「普通・違う」から「そうなんだね」へ

違いを「からかい」のネタにする風潮は、大人社会の価値観の投影かもしれません。

ご家庭でも「ちがいをおもしろがる = そうなんだね」という視点でお話してみてください。私たち大人の在り方が、子どもの「多様性を受け容れる心」を育てます。

誰もが安心して受けられる内科健診を

～こころとからだの「境界線」を大切に～

新琴似西小学校では、子どもたちが「自分のからだは自分のもの」という意識を持ち、自分や他者のこころとからだの「境界線（バウンダリー）」を大切にできるよう、内科健診の進め方を工夫しています。人には、むやみに他の人には見られたくない、触れられたくない領域があります。それは外見の悩みや疾患、性的な違和感など、一人一人異なります。そのため、健診会場には災害避難所などで使用される間仕切りを設置し、個人のプライバシーが守られる「着替えブース」を設けています。

- ★服装について：医師の前では「上半身Tシャツ又は下着のシャツ」
- ★低学年へのおススメ：Tシャツの上に何か1枚羽織る服装が、脱ぎ着がスムーズです。
- ★背骨の検査のために：ブラジャーやカップ付きキャミソールを着ている場合は、上のTシャツ等を脱いで受けてもらいます。

